

## 集団検診機関におけるがん検診のプロセス指標について

### ■プロセス指標とは

がん検診の最終的な目標は、当該がんの死亡率減少であるため、検診が正しく行われていたかを評価するには死亡率（アウトカム指標）が最も適切である。しかし、検診が死亡率に与えた影響が判明するには相当の時間を要するため、がん検診の精度管理においては、中間結果であるプロセス指標（受診率、要精検率、精検受診率、陽性反応適中度、がん発見率等）が代替指標として用いられている。

### ■厚生労働省「がん検診事業の評価に関する委員会」が提案するプロセス指標数値

※がん検診事業の評価に関する委員会報告「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について」（H20年3月）より抜粋

#### ○数値設定の対象となる検診

今回提案する数値指標は対策型検診（集団、個別共に）を対象とする。

また、有効性のある検査法による検診（下記の検診法）のみが対象である。

乳がん：視触診とマンモグラフィの併用

子宮頸がん：細胞診

大腸がん：便潜血検査

胃がん：胃エックス線

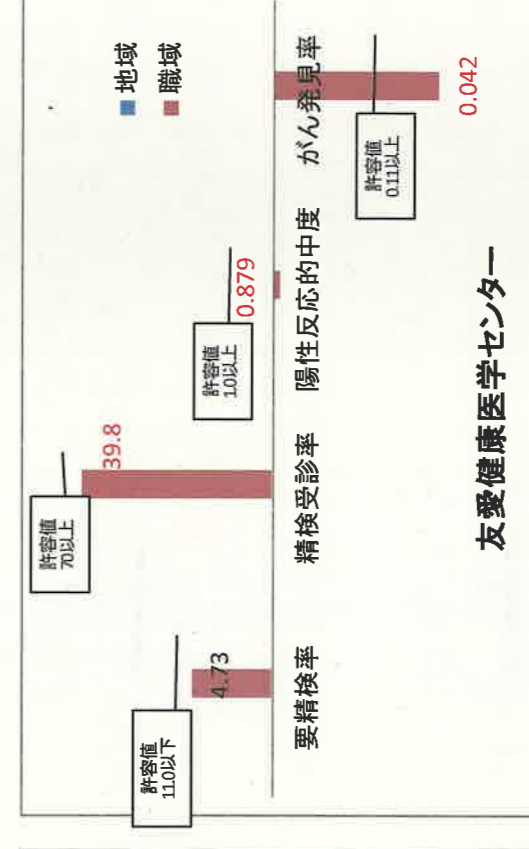
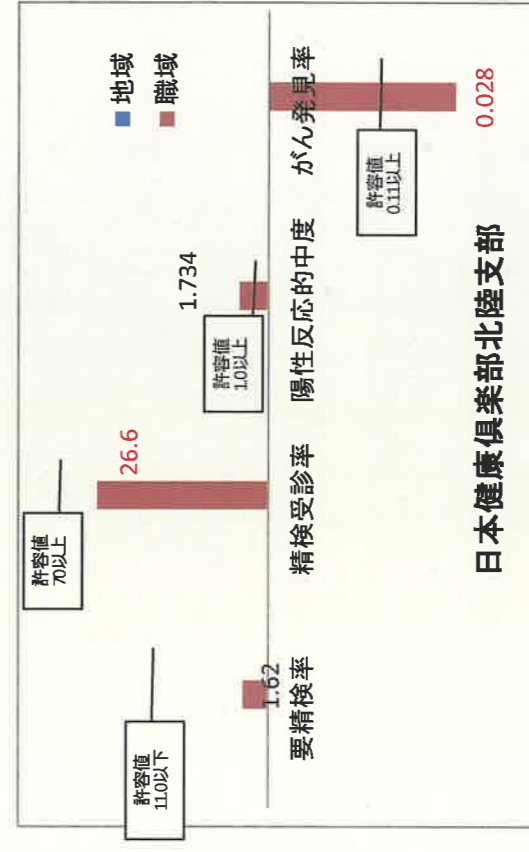
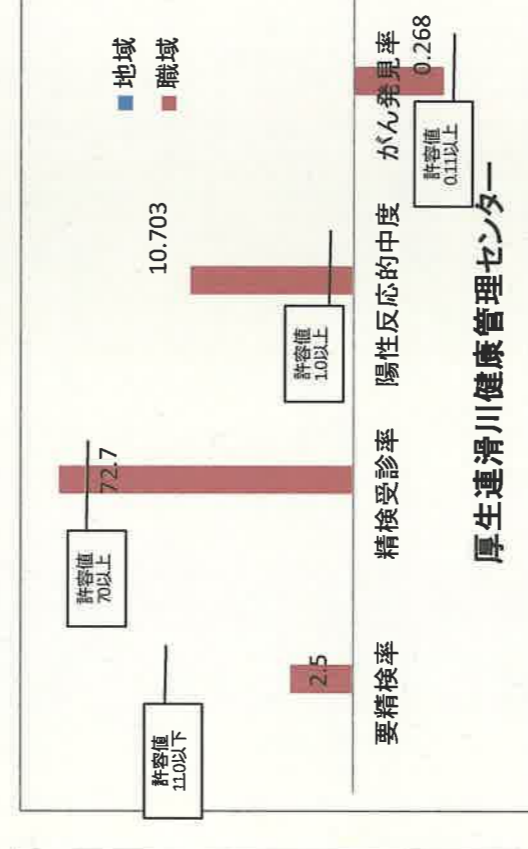
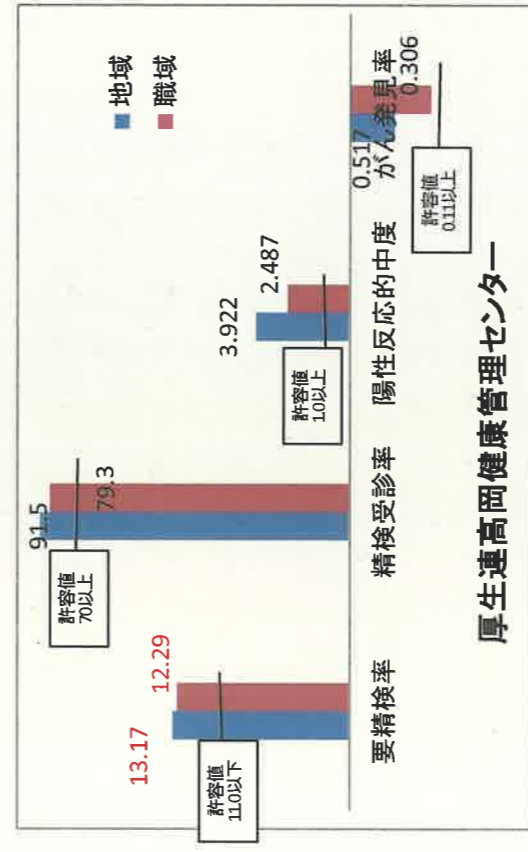
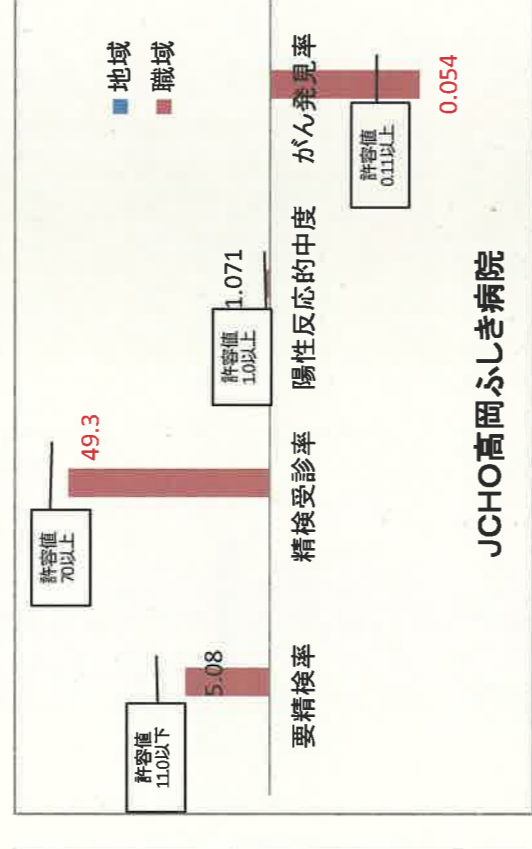
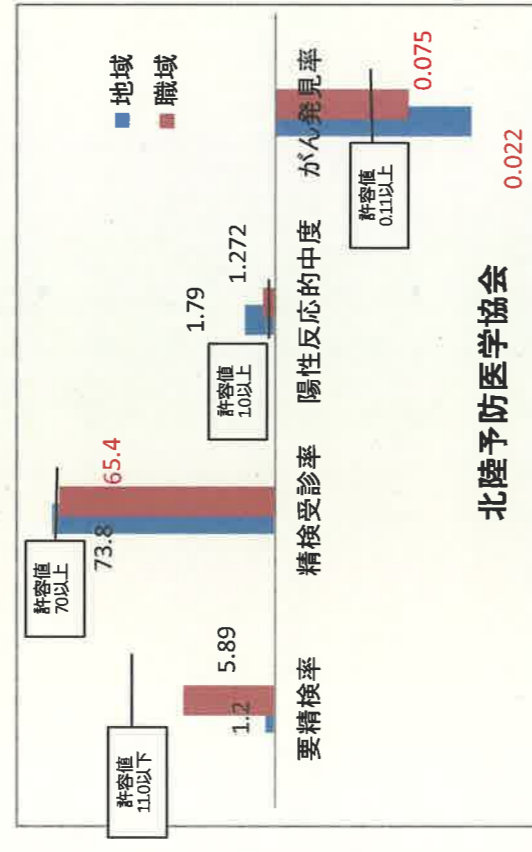
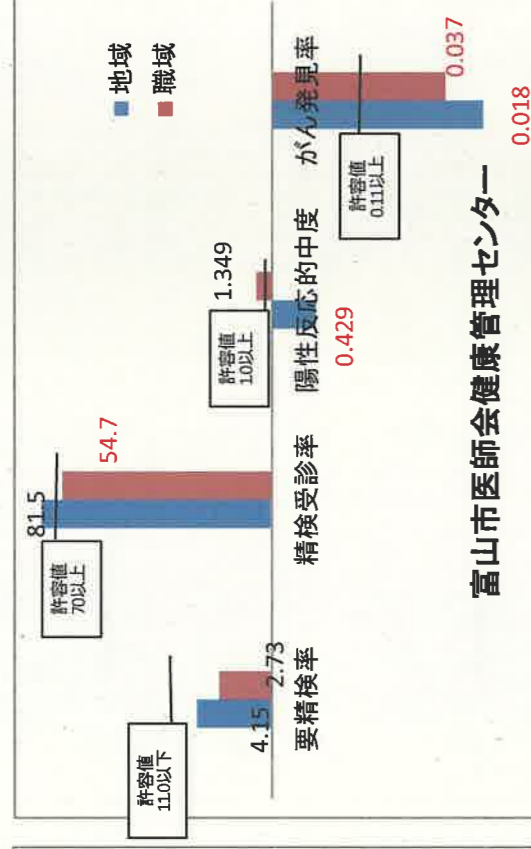
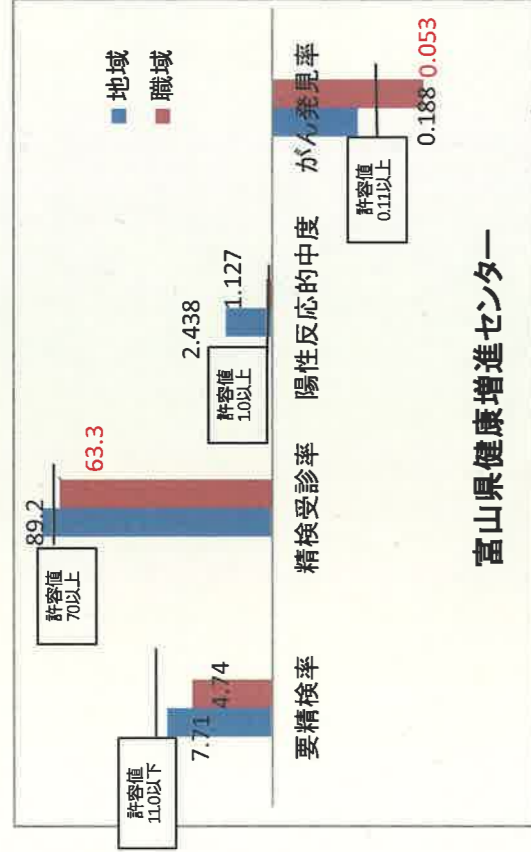
肺がん：胸部エックス線と喀痰検査（高危険群のみ）の併用

#### ○各がん検診に関する事業評価指標とそれぞれの許容値及び目標値

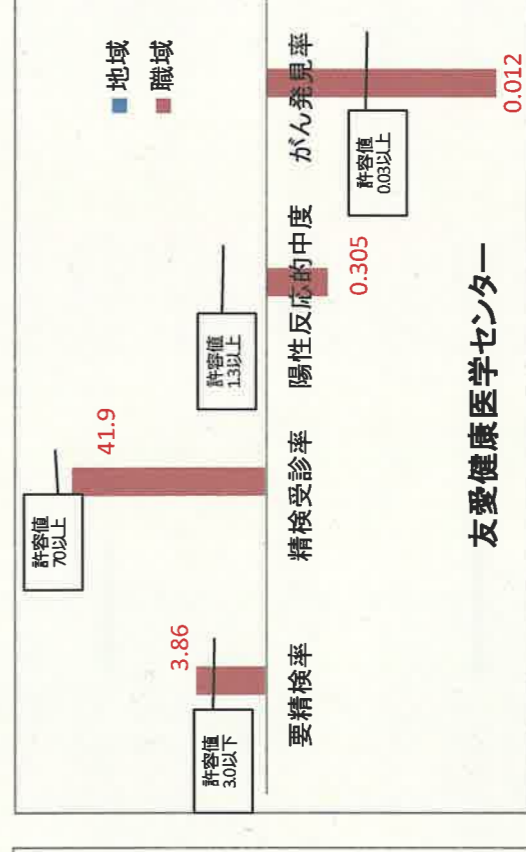
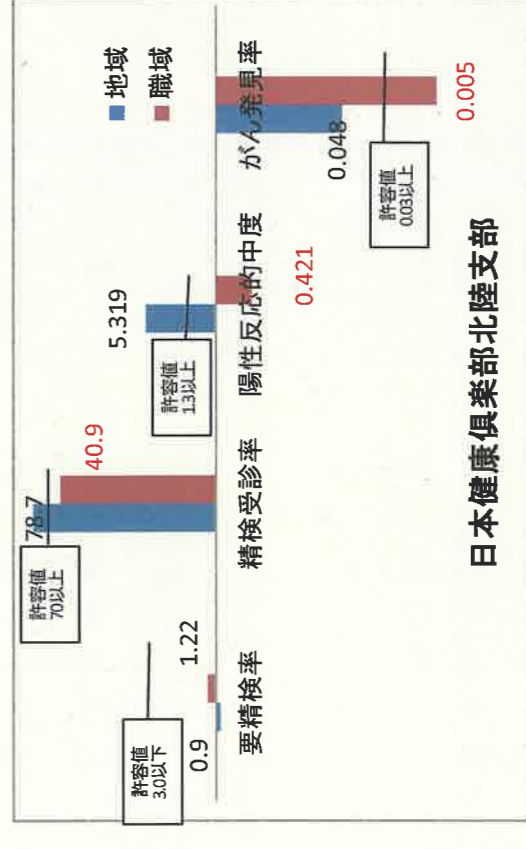
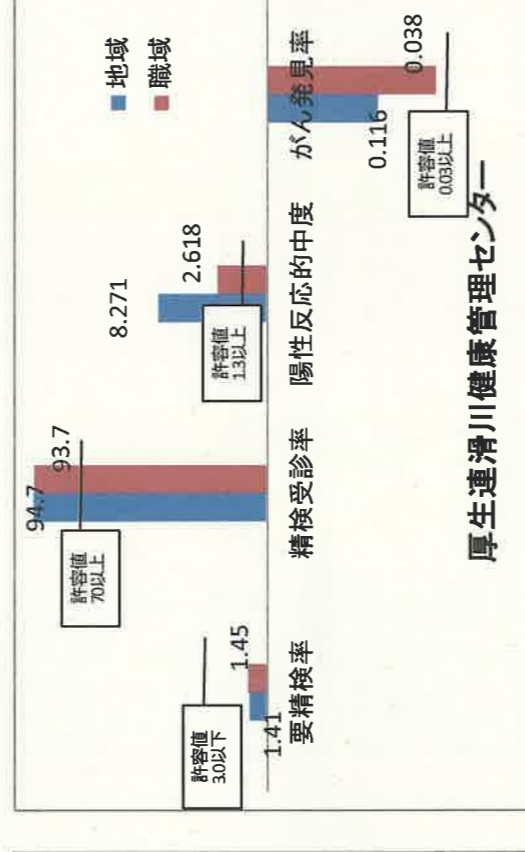
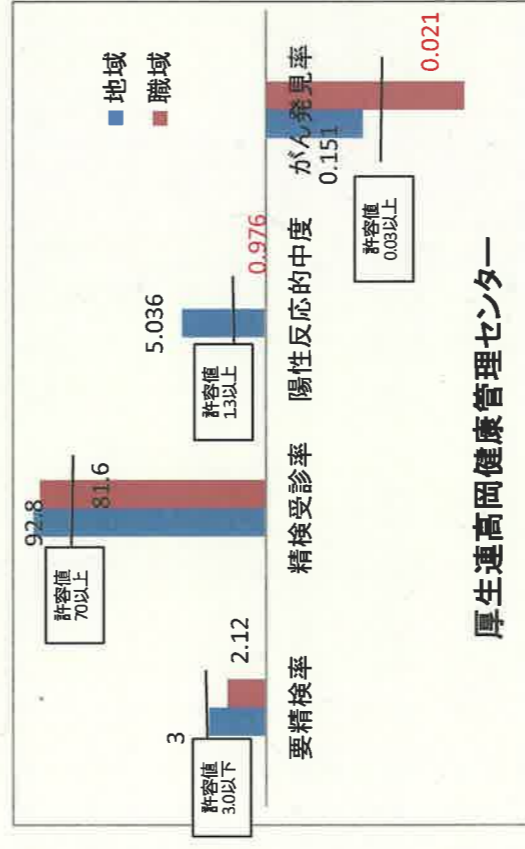
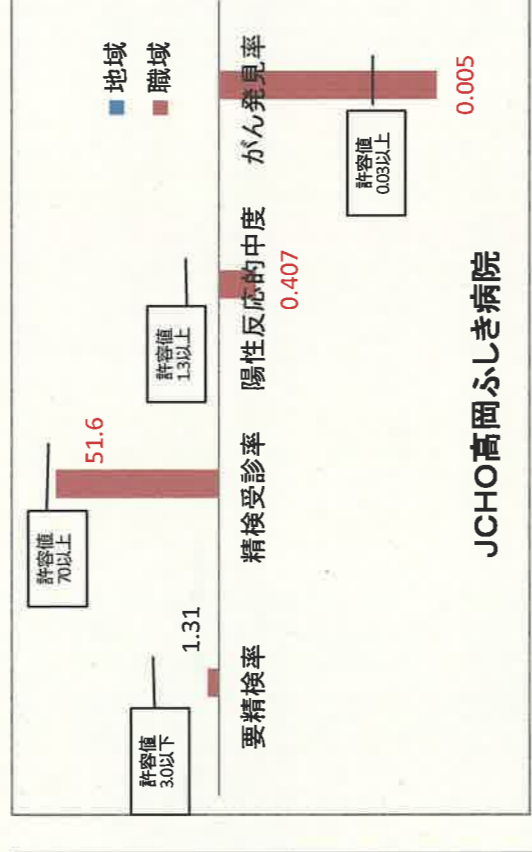
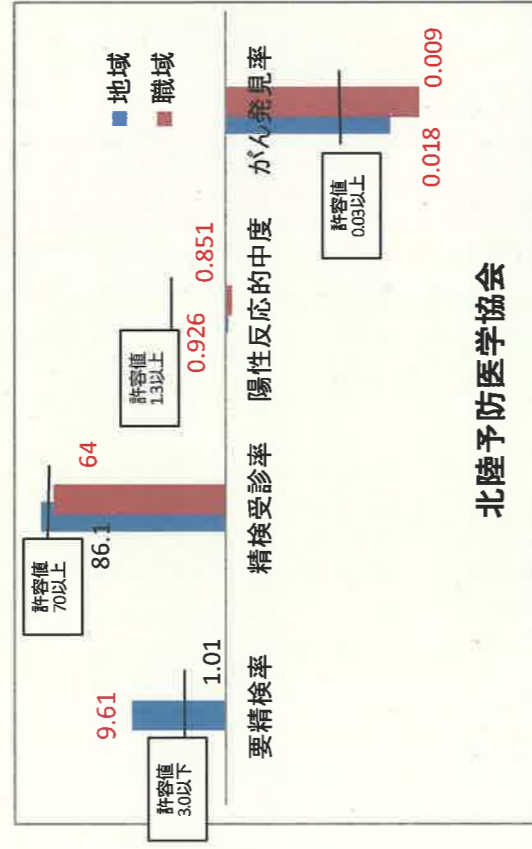
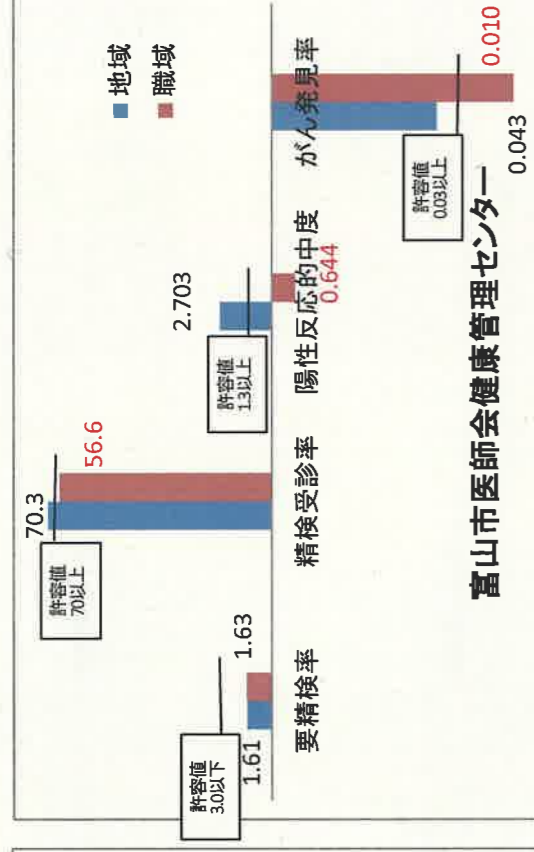
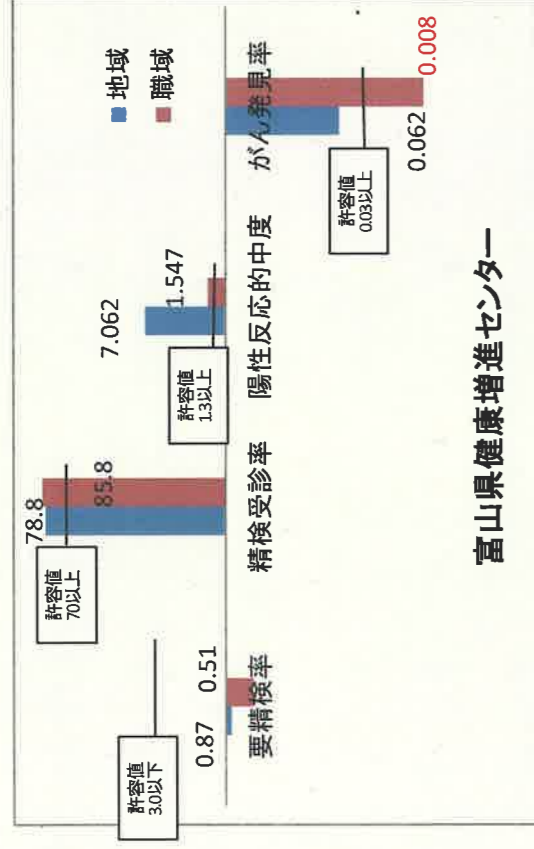
		乳がん	子宮がん	大腸がん	胃がん	肺がん
精検受診率	許容値	80%以上	70%以上	70%以上	70%以上	70%以上
	目標値	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
未把握率	許容値	10%以下	10%以下	10%以下	10%以下	10%以下
	目標値	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下
精検未受診率	許容値	10%以下	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下
	目標値	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下
精検未受診・ 未把握率	許容値	20%以下	30%以下	30%以下	30%以下	30%以下
	目標値	10%以下	10%以下	10%以下	10%以下	10%以下
要精検率（許容値）		11.0%以下*	1.4%以下	7.0%以下	11.0%以下	3.0%以下
がん発見率（許容値）		0.23%以上*	0.05%以上	0.13%以上	0.11%以上	0.03%以上
陽性反応適中度（許容値）		2.5%以上*	4.0%以上	1.9%以上	1.0%以上	1.3%以上

※乳がん検診の要精検率、がん発見率及び陽性反応適中度については、参考値とする（算出対象の平成17年度データはマンモグラフィ検診が本格実施された最初の年のものであり、初回受診者の割合が著しく高いことに影響され、過大評価されている可能性が高いため）

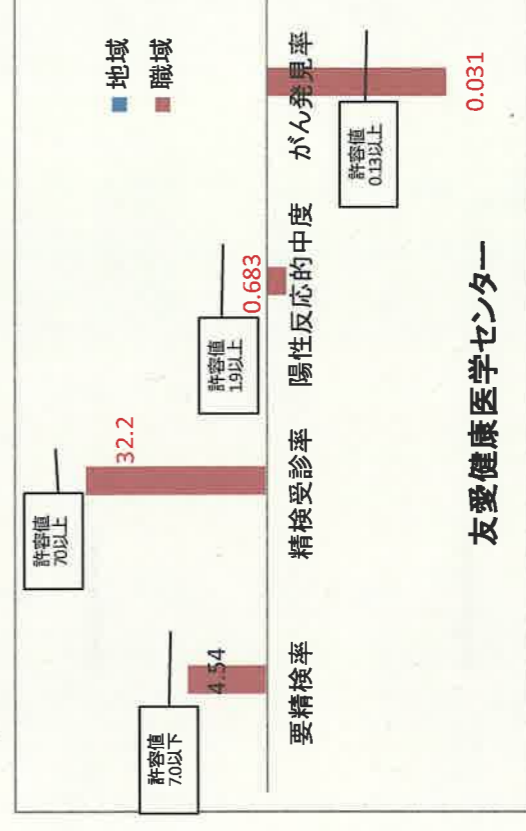
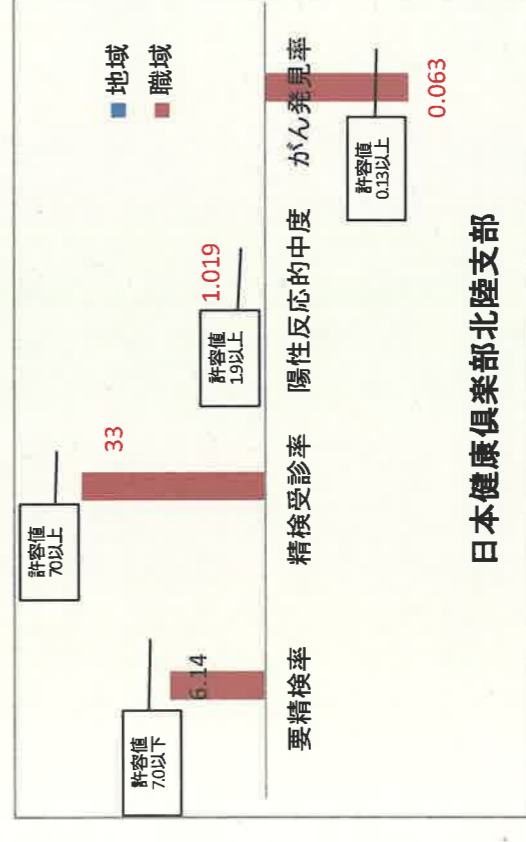
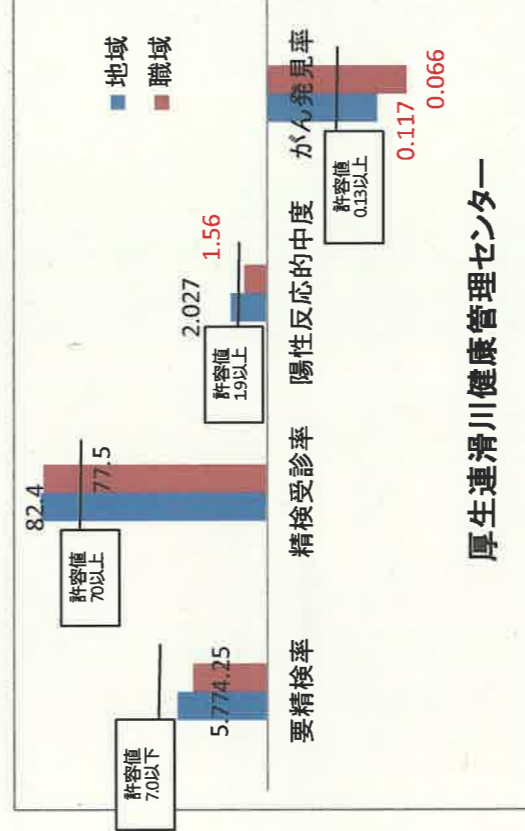
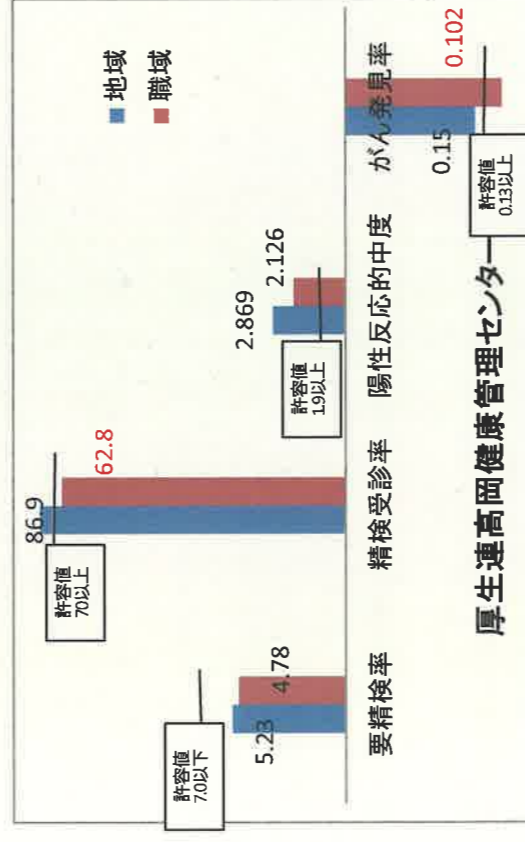
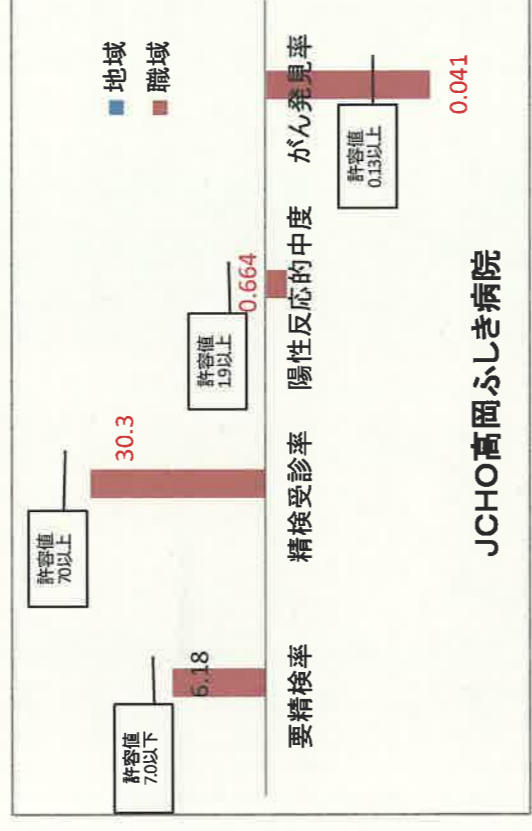
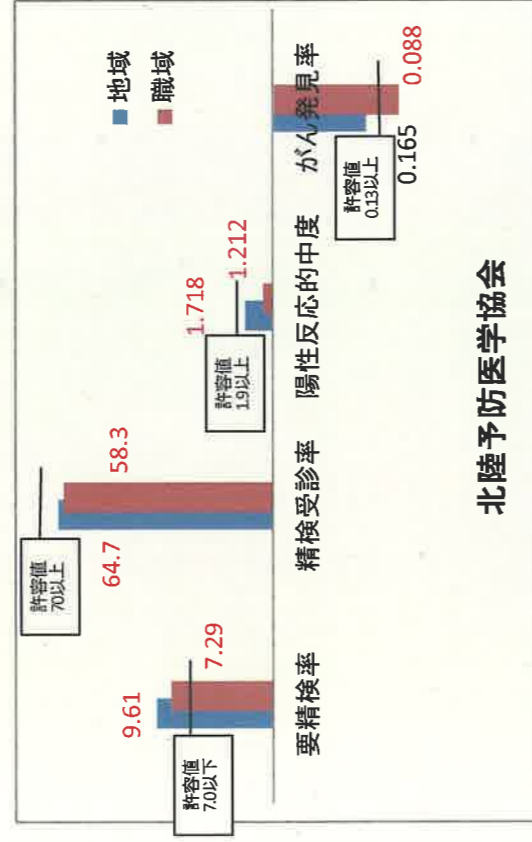
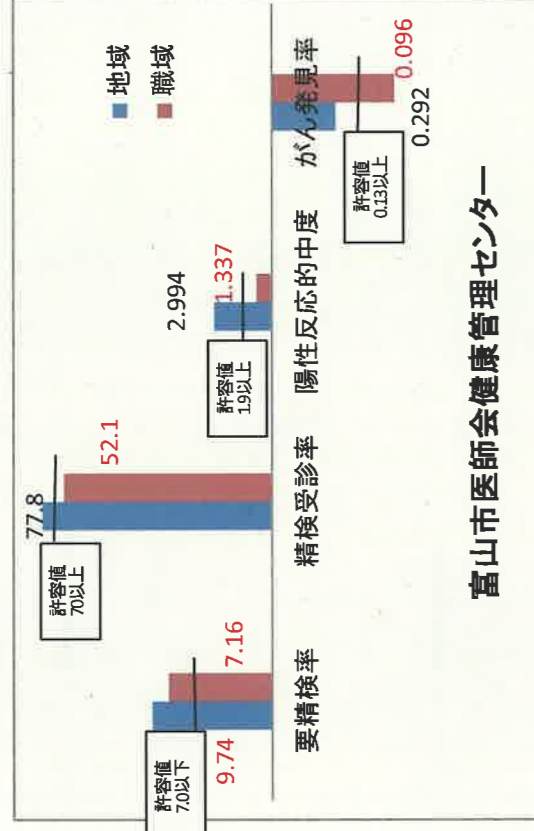
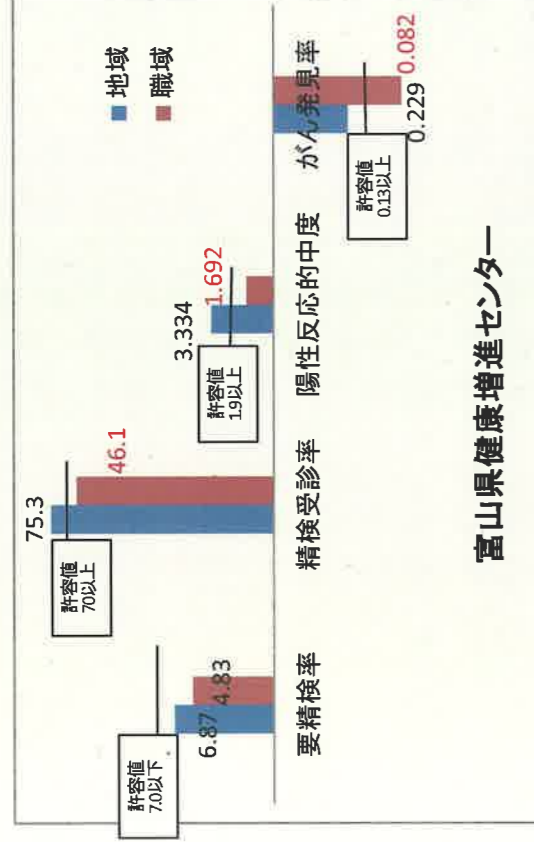
■胃がん検診における各検診機関のプロセス指標



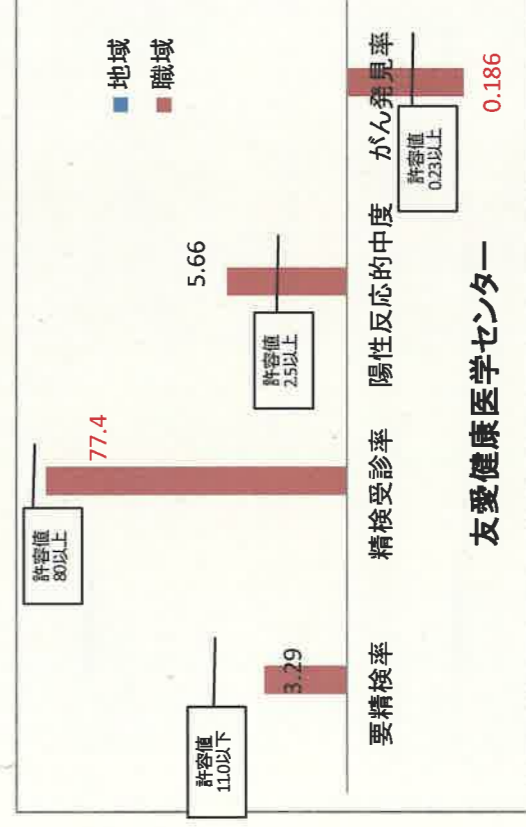
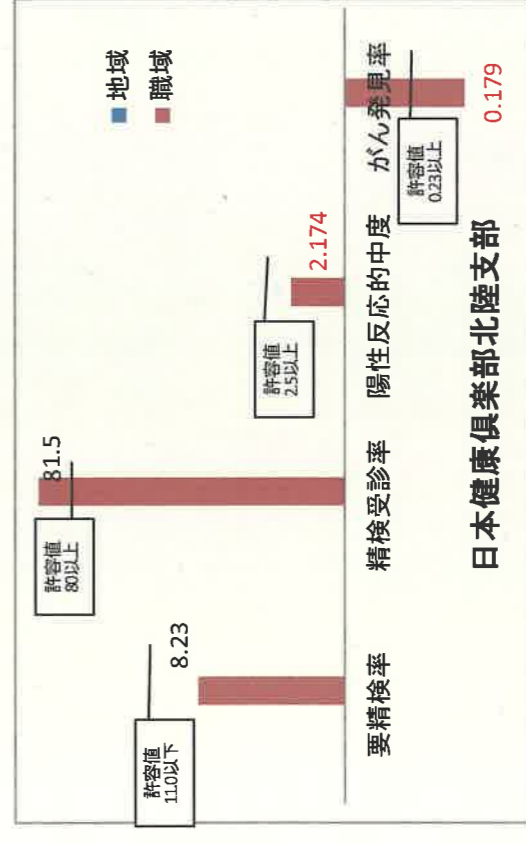
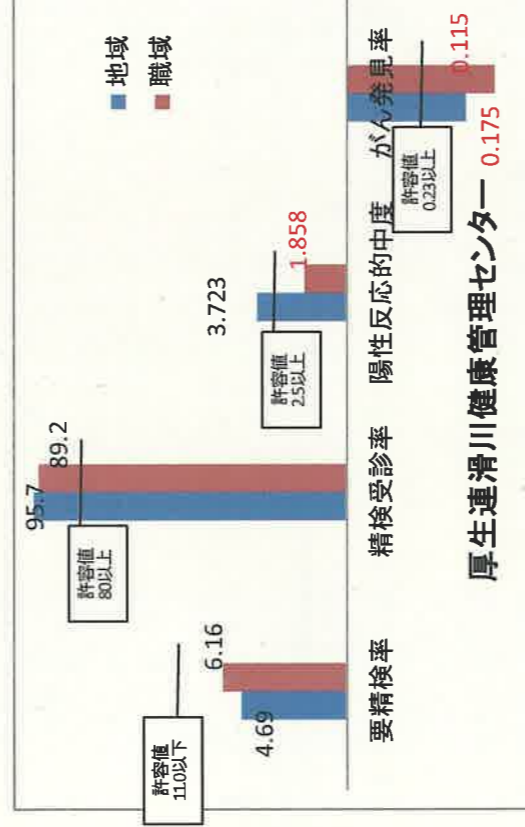
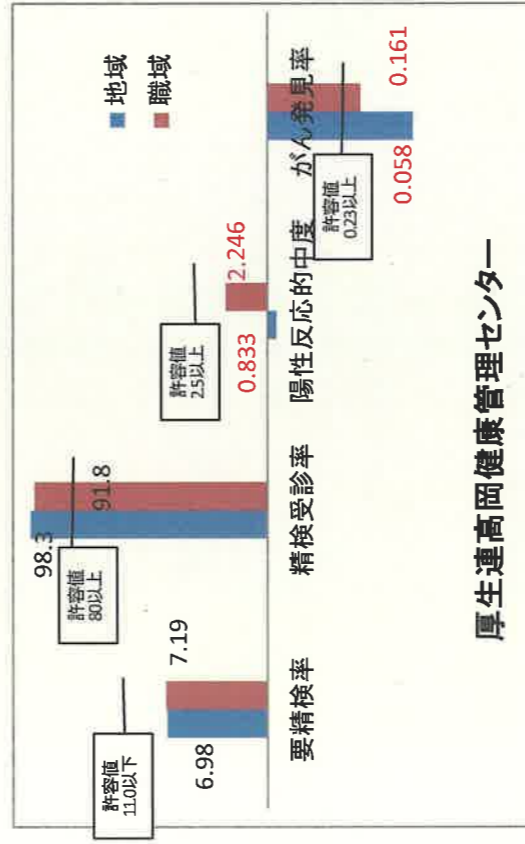
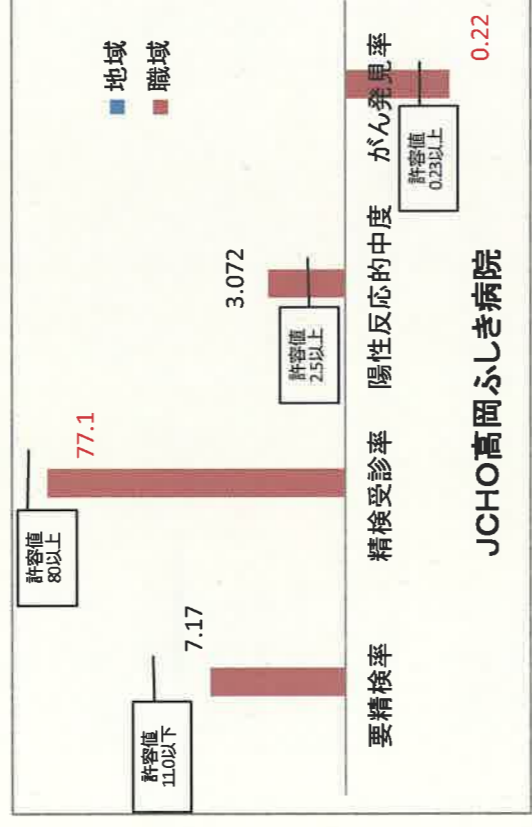
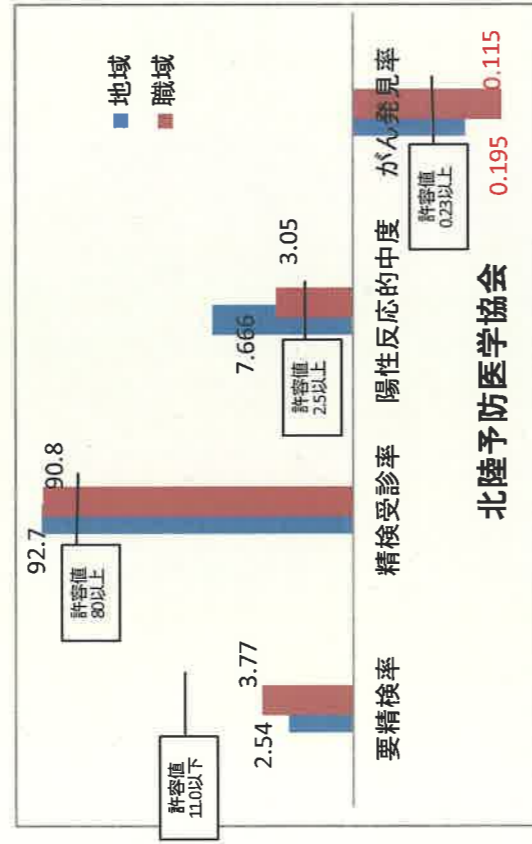
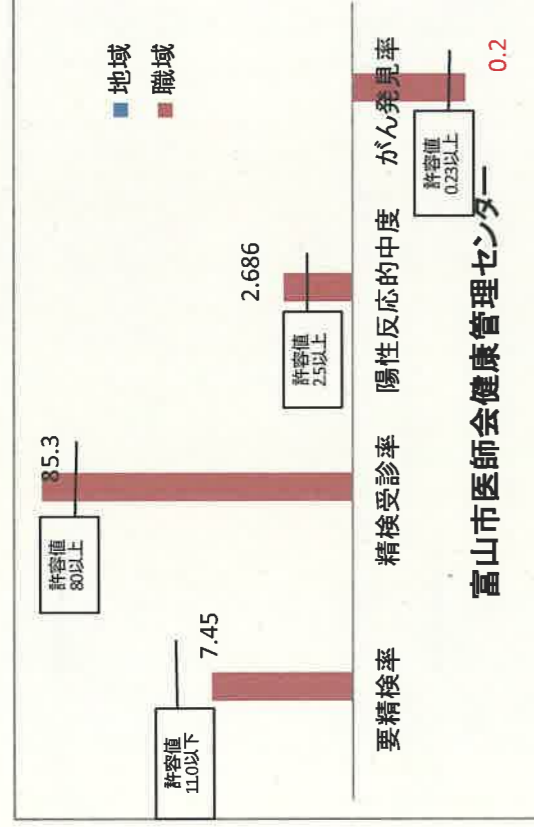
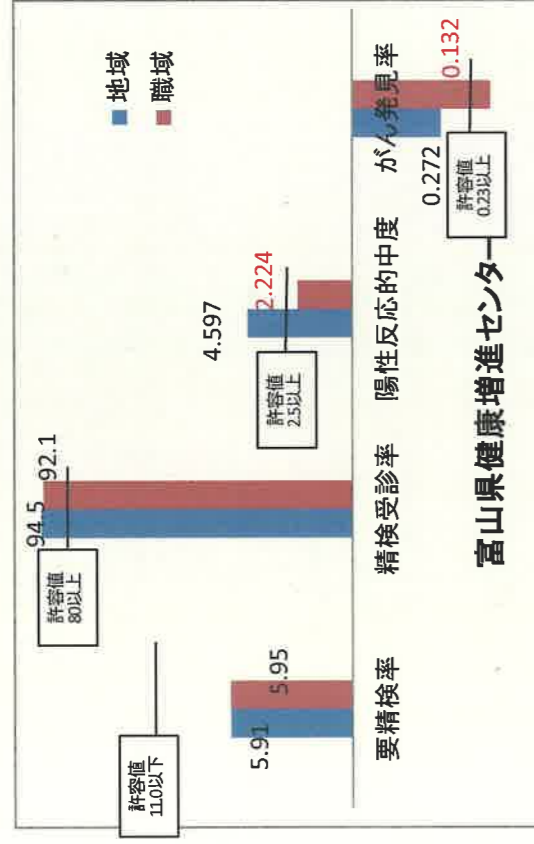
■肺がん検診における各検診機関のプロセス指標



■大腸がん検診における各検診機関のプロセス指標



■ 乳がん検診における各検診機関のプロセス指標



■子宮頸がん検診における各検診機関のプロセス指標

